

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目群	保健医療学特論	<p>(概要) 本科目では、社会・自然環境や人の生活と健康の関わり、健康の概念、医療の歴史と今、さらに社会の発展と保健医療体制の動向や将来についてプレゼンテーションやディスカッションを交えて展望する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 千葉 仁志/11回) 自然・社会環境と健康生活の関係、なかでも健康の概念、健康指標に基づく健康水準の理解を踏まえ、健康を阻害するリスク要因、健康増進に向けた社会の動向や方策を教授する。また、現代医療がたどってきた歴史、社会の発展と保健医療体制の変遷、将来のチーム医療、医療施設など現代医療システムのあり方について、保健医療のパラダイム・シフトの提言を含めて解説する。</p> <p>(3 針金 佳代子/2回) 保健医療に関わる関係職種の発生と役割、我が国の保健医療の変遷と看護師・保健師・助産師の看護専門職の歴史の関係、地域包括ケアと保健医療のチーム連携の現況と課題を考察し、今後の保健医療システムにおける連携・協働のあり方について考察する。</p> <p>(7 川口 美喜子/2回) 栄養士の誕生から管理栄養士の専門職としての歴史を踏まえ、保健医療における管理栄養士の位置づけ、地域包括ケアと他職者とのチーム連携・協働の現況と課題、今後の保健医療システムにおける管理栄養士の役割のあり方について考察する。</p>	オムニバス方式
	保健医療システム論	<p>(概要) 本科目では、わが国における保健医療行政の役割と仕組み、行政の基盤となる関係法規の歴史と現在を体系的に教授するとともに、福祉行政についても教授する。これらから、国および北海道における保健医療福祉体制の構築過程の特徴、現状と課題、地域包括ケアを含む政策と地域活動の実際について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 針金 佳代子/8回) 保健医療行政の役割と仕組みと関係法規、保健医療システムの構築・推進に向けた地域の特性、社会・経済格差と健康格差の関連性など課題を構成する要因を分析し、解説する。また、北海道の地域包括ケアシステムと地域活動の実際について概説する。</p> <p>(16 大西 浩文/5回) 公衆衛生学・医療社会学的観点から生活習慣病の要因調査、実際の地域活動を通しての地域住民と多職種連携・協働による社会ニーズに対応したシステムづくりや運営について教授する。</p> <p>(17 伊藤 新一郎/2回) 福祉行政と法的基盤、および福祉の立場から保健医療との協働の現状と課題について教授する。</p>	オムニバス方式
	チーム医療と組織管理	<p>(概要) 近年、医療分野では複雑・高度化した医学的管理のもとでケアの質的向上を図るために関係職種間のチーム連携および対象者中心の多様な組織づくりを進める能力が求められ、また地域における効果的なケアシステム構築には関係機関・職種だけでなく、その地域に暮らす住民の参加する組織づくりも不可欠といえる。そこで本科目では、チームを構成する関係職種間の相互理解、チーム編成の基本、リーダーシップやマネジメントの基盤理論、および看護・栄養の組織管理の実際と特徴、課題について教授し、看護・栄養の連携・協働のあり方を検討する。さらに、住民主体の保健活動を促進するための組織づくりと展開方法の基礎、住民と組織間等の連携・協働や地域ケアシステムの構築について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 岡本 智子/9回) チーム医療およびチームマネジメントの基本知識と技術、チーム形態別のチームマネジメント、さらにチーム自体を向上させるリーダーシップのあり方についての知識と技術を教授する。また、管理栄養士の立場から、医療施設における栄養部門の管理・運営の特徴と他部門との連携について教授する。</p> <p>(10 近藤 明代/4回) 地域における健康づくり活動がヘルスプロモーションの理念を基盤にして組織的に展開されていることを理解するために、実際の活動例をもとに住民参画、住民主体の重要性、地域組織活動の展開の基本、関係職種・機関との連携・協働、地域ケアシステム構築の特徴と看護職の役割を教授する。</p> <p>(19 上田 順子/2回) 医療施設における看護部門の組織的特徴と管理・運営方法、他部門・職種との連携・協働の実際について教授する。またこれらの課題の解決と専門職能団体の活用について教授する。</p>	オムニバス方式

<p>共通 科目 目 群</p>	<p>保健医療と倫理</p>	<p>(概要) 保健医療における倫理的基盤、生命倫理・医療倫理・臨床倫理に関する学修を前提に、専門職倫理の原則と重要概念、国際的宣言や医師・看護職・管理栄養士等保健医療専門職の倫理綱領を学修し、保健医療専門職に求められる倫理の本質と課題について考察する。さらに対象者と家族、職種内・多職種間で生じる倫理的問題、倫理的意思決定を導く基本的なアプローチ法を教授する。これらをもとに事例演習において、倫理的問題を明確化して解決策を導出する過程を学び、倫理的判断を行うための思考過程の基本を修得する。加えて、研究遂行に必要な研究倫理、教育者に求められる教育倫理について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 大日向 輝美／11回) 保健医療に関する倫理的基盤、専門職倫理の原則と重要概念、各専門職の倫理綱領、倫理的意思決定を導くアプローチ法を教授し、倫理的問題を明確化して解決策を導出する事例演習を行うほか、教育倫理を教授する。</p> <p>(21 旗手 俊彦／4回) 生命倫理・医療倫理・臨床倫理の概念と基礎理論と倫理的課題、人を対象とする研究倫理の基礎知識、各種法令・指針、公正確保の諸方法の変遷と最新動向について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>研究法概説</p>	<p>保健医療分野における看護学・栄養学に係る研究の意義・目的を明らかにし、量的・質的研究方法の種類と特徴、研究のプロセスを解説する。具体的には研究テーマの明確化、文献検索の方法、文献の批判的検討、研究デザインの種類と特徴等、研究に必要な論理的思考や研究に取り組むための基本となる知識を概説する。研究計画書の作成過程とその基本についても具体例を交えて授業を展開する。また、研究の倫理指針、特に保健医療分野における人を対象とする研究のプロセスで厳守すべき要点について教授する。</p>	
	<p>統計学</p>	<p>保健医療系研究法の基礎として、集団を対象とした問題について、因果関係解明とエビデンス構築の方法、問題解決に必要なデータ収集・分析に関わる統計的技法を学び、エビデンスに基づく評価研究や量的研究の成果を批判的に分析、検討する能力を培う。演習では、統計解析ソフトを用いたデータ分析（記述統計、平均値の差の検定、分散分析等）の実際とその解釈について、先行研究に用いられている統計学的処理等をディスカッションの材料として取り上げて展開する。</p>	
	<p>疫学と保健統計</p>	<p>本科目では、保健医療分野における疫学と保健統計、社会調査の各概念、調査方法の目的と特徴等の基本を整理し、各研究方法と統計処理等について教授する。疫学と保健統計では人口集団に出現する健康関連の事象の頻度と分布、その要因や条件の分析・探究と対策について、保健医療統計のデータを用いながら調査・研究、統計処理に関して解説する。社会調査では社会現象や人間行動に関するデータを収集・分析・解明するもので、保健医療での社会調査の意義・目的、方法、データの統計処理、解析方法と特徴等、さらに質問紙の作成方法に関して解説する。これらの知識から実際のデータを用い統計処理方法を模擬展開する。また、産業保健統計や学校保健統計を交えて解説し、保健医療における看護・栄養への活用について考察する。</p>	
	<p>ヘルスアセスメント</p>	<p>(概要) 本科目では、看護職と管理栄養士の連携・協働に必要な基盤的能力の向上をめざし、健康・生活・栄養に関するアセスメントや専門的支援に必要な専門知識と技術について看護学と栄養学の観点から学修するとともに、自己の役割機能と他方の専門性に関する理解を深める。看護職は栄養ケアプロセス等の栄養学的観点から、また管理栄養士は人間行動に着眼した看護アセスメントの観点から学ぶことで、それぞれの知識・技術を自職種の実践に活用することで、看護あるいは栄養ケアの充実・向上につなげる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 大日向 輝美／3回) 看護学・看護実践の目的・対象・方法、看護職の役割機能、看護診断と看護過程、ヘルスアセスメントの概念等について概説する。</p> <p>(16 首藤 英里香／5回) ヘルスアセスメントにおける健康歴と全身のアセスメント、セルフケア能力、心理精神的・社会的な能力、食物の摂取・消化吸収・排泄、および身体活動に関わるフィジカルアセスメントの知識・技術を教授する。</p> <p>(12 岡本 智子／5回) 栄養学・栄養実践の目的・対象・方法、管理栄養士の役割機能、栄養ケアプロセスの実際について、慢性期、急性期および高齢者の事例をもとに展開する。</p> <p>(1 大日向 輝美・12 岡本 智子・16 首藤 英里香／2回) (共同) 看護職・管理栄養士が行うアセスメントの特徴、連携・協働のためのアセスメントのあり方や共有についてディスカッションする。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>

<p>共通 科目 目 群</p>	<p>健康教育論</p>	<p>(概要) 本科目では、保健医療分野における看護師・保健師・管理栄養士職の重要な役割である健康教育(患者指導、保健指導、栄養指導・食育等)の基礎となる諸理論を教授する。異なる専門的立場から、対象(個人・家族、地区・小地域、組織、地域等)の特性の分析、目標の設定、有効な教育方法(個人教育、集団教育、講義、演習等)や教材の選択方法を学び、適切な教育指導のあり方、指導案の作成法の理解を促す。また、「看護」や「栄養・食」に関する事例をもとに教育指導案を作成、発表し、それらの事例分析、目標設定、指導内容と方法の効果、教材の選定等の一連の過程を通して、教育指導の理解を深め、実践能力の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 近藤 明代/4回) 保健医療分野における、看護師・保健師の立場からの患者指導、保健指導等の基礎となる諸理論と、対象の特性の分析、目標の設定、有効な教育方法や教材の選択方法、適切な教育指導のあり方、指導案の作成法について教授する。また、管理栄養士と連携した教育の有効性について言及する。</p> <p>(14 百々瀬 いづみ/4回) 保健医療分野における、管理栄養士の立場からの栄養指導・食育等の基礎となる諸理論と、対象の特性の分析、目標の設定、有効な教育方法や教材の選択方法、適切な教育指導のあり方、指導案の作成法について教授する。また、看護師・保健師と連携した教育の有効性についても言及する。</p> <p>(13 近藤 明代・14 百々瀬 いづみ/7回) (共同) 「看護」や「栄養・食」に関する事例をもとに教育指導案を作成し、発表に至るまでの一連の過程について教授する。それらの事例分析、目標設定、指導内容と方法の効果、教材の選定等の討議を通じて、教育内容・方法の評価、課題等について理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
	<p>健康行動科学特論</p>	<p>主要な健康問題の発症と予防にはライフスタイルの影響が大きい。近年、社会構造の変化にともない、我々のライフスタイルは著しく変っているが、その中で、個人の行動は様々な外部的環境要因の影響を受けながら決定されている。本科目では、近年、山積する健康問題を取り上げ、その解決を目指す健康教育は行動科学の応用分野であることを踏まえ、行動変容に関わる諸理論について解説するとともに、理論背景と実践例に基づき、個人レベルから地域社会、国家レベルまで視点を変えながら健康行動を整理する。</p>	
	<p>保健医療教育学特論</p>	<p>我が国における保健医療専門職の養成教育について、看護職・管理栄養士の職業的発展と保健医療に対する社会的ニーズ、歴史的規定との関連から教育制度(教育課程を含む)の変遷と現状を学び、現行制度に内在する課題をふまえ改善・改革方略を展望する。加えて、看護職・管理栄養士のキャリア発達・支援の内容・方法、専門職教育の現状、保健医療専門職に求められるコンピテンシー、プロフェッショナルリズムを涵養するための教育理論(正統的周辺参加、認知的徒弟制等)を教授し、今後の看護職・管理栄養士の養成教育、専門職教育のあり方について考察する。</p>	
	<p>フィールドワーク</p>	<p>本科目は、集中授業である。保健医療における看護・栄養の実践の場における役割と活動実態、連携・協働、調整・マネジメントの実際について学修することをねらいに、各自の学修課題を計画し、課題に応じて医療機関、訪問看護ステーション、保健所等のいずれかに3日間以上出向き、各自の課題に応じた学修を行う。さらに、その成果を学内でのプレゼンテーションやディスカッションを通して課題を共有し、保健医療における看護職と管理栄養士のあり方について考察する。</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目 群</p>	<p>健康食生活学特論</p>	<p>(概要) 本科目では、健康の維持増進、病気の予防の保健活動の観点から、個人のライフステージや心身の健康状態に対応した支援の重要課題の一つである健全な食習慣構築に向けた食生活のあり方について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 板垣 康治/10回) 食品に期待される一次(栄養)・二次(感覚)・三次(生体調節)の3つの機能性を踏まえ、心身の健康増進、病気の予防につながる食品の選択法について、とくに三次機能として食品に由来する免疫機能発現に焦点を当てて教授する。</p> <p>(14 金高 有里/5回) 健康増進に寄与する日常の食生活の実践的支援に向けて、現代食生活の課題とその解決に寄与する健全な食生活のあり方を教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専門科目群	健康増進支援領域	<p>健康増進支援学特論 I</p> <p>(概要) 超高齢化社会、平均寿命の延伸、少子化の加速から、国は将来に向けてあらゆるライフステージにある人々の健康寿命の延伸と健康な生活のあり方のために生活習慣および社会環境の改善・向上をめざしている。本科目では、地域の住民（個人・家族）や集団・組織、さらに地域を支援の単位に、健康増進のための地域保健医療体制の現状と課題を社会的・歴史的観点から考察する。さらに将来を見通し、保健医療職としての看護職（看護師・保健師）・管理栄養士のそれぞれの専門的特性を踏まえた役割・機能と専門的実践について教授し、地域保健活動における看護職と管理栄養士の協働のあり方について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 針金 佳代子／6回) わが国における地域保健医療体制について、看護師、保健師、管理栄養士の視点に立った現状と将来の課題を歴史的・社会的観点から解説する。また、地域特性および地域の健康に関する量的・質的データをアセスメントし、その分析結果から健康課題の抽出と優先性の検討、その対処方法としての地域包括ケアと地域づくり、住民主体のヘルスプロモーション活動の実践について教授する。</p> <p>(4 山部 秀子／4回) 現代の健康課題の要因として食生活習慣の改善が重要となっている。ここでは北海道の地域性と食との関係について、自然環境および北海道独自の生活文化、食事や食環境、食生活の変容、食習慣の実践を歴史的・社会的観点を交えて教授する。さらに健康課題が生じている地域（自治体）の食環境を捉えるためのアセスメントについて教授する。</p> <p>(3 針金 佳代子・4 山部 秀子／5回) (共同) 北海道内の特定の自治体（市町村）の事例をもとに、看護と栄養を基軸にその地域の食習慣に焦点をあてながら地域特性やさまざまなデータをアセスメントし、健康課題の抽出・優先度の検討を実際に行い、健康課題への対処方法をディスカッションする。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	健康増進支援学特論 II	<p>(概要) 超高齢化社会、平均寿命の延伸、少子化の加速から、国は将来に向けて子どもから高齢者まで全ての人がライフステージに応じて、健やかで心豊かに生活するために「食」をはじめとする生活習慣および社会環境の改善・向上をめざしている。本科目では、地域の住民（個人・家族）のライフステージにおける「食」が介在する健康課題と、フードサービス、栄養マネジメントの役割について教授する。さらに、ライフステージ別の保健と健康課題、およびヘルスプロモーションの理念を踏まえた健康課題を解決するための諸理論、様々な活動方法の実践、地域づくりについて教授するとともに、今後の地域保健医療に求められる看護師・保健師・管理栄養士の役割機能について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 山部 秀子／4回) 「食」が介在する母子、成人、児童、高齢者等の健康課題を抽出し、各ライフステージの健康課題の特徴と「食」の問題、栄養状態と食生活のアセスメントに基づく改善対策、フードサービス支援の役割と実際について教授する。</p> <p>(3 針金 佳代子／6回) 母子・成人・高齢者・障がい者保健に関わる健康課題とヘルスプロモーションの理念に基づく解決方法としての諸理論、および住民主体の地域づくりの理論と方法について教授する。</p> <p>(3 針金 佳代子・4 山部 秀子／5回) (共同) 母子・成人・高齢者・障がい者に対する地域保健医療における量的・質的データを実際に分析しながら健康課題を考察し、今後のQOL向上を目指した住民および多職種との連携・協働のもとに展開される地域包括ケアシステムの構築と推進、また、その際に求められる看護師・保健師・管理栄養士の専門的役割と機能についてディスカッションする。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

<p>専門科目群</p>	<p>健康増進支援領域</p>	<p>健康増進支援特別演習 I</p> <p>(概要) 健康増進支援領域の専門科目の学修内容を深化させるとともに、健康の維持増進や病気の予防を目的とする地域保健の視野から、地域に暮らす人々の健康生活の向上に係る関心ある課題について、保健医療学分野における健康増進支援のあり方に焦点を当て、保健医療系の文献の選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定する。</p> <p>(2 千葉 仁志) 主に脂質代謝や酸化ストレス応答に関連する一次予防策の現状と課題を国内外の文献情報から把握し、生活習慣病の一次予防策の改善に資する研究テーマを設定する。</p> <p>(3 針金 佳代子) 住民主体のヘルスプロモーション、住民との協働による全世代型地域包括ケアシステムの形成などに焦点を当て、文献選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化する。</p> <p>(4 山部 秀子) 健康の維持増進や疾病予防を目的とした給食管理のあり方に焦点を当て、文献選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化する。</p> <p>(5 板垣 康治) 長年にわたり食物アレルギー発症率全国第一位の北海道の現状を踏まえて、その原因を明らかにすることで発症予防に寄与することを目的とし、関連する食品科学系・医学系論文を集積し、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定する。</p> <p>(10 近藤 明代) 地域の健康問題や課題に組織的に対応するため、住民・関係者と連携・協働しながら行う地域づくり活動に関する文献を精読し、地域の健康づくりに関する諸理論を理解した上で研究疑問を明らかにする。</p> <p>(11 百々瀬 いづみ) 健康の維持増進や疾病予防を目的とした健康増進支援、その中でも特に、食・栄養および運動面に焦点を当てた栄養教育、健康教育について、文献選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化する。</p> <p>(14 金高 有里) 現代人の健全な食生活のあり方に関する課題に焦点を当て、文献の選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション等を通して研究テーマを明確化し、設定する。</p> <p>(15 津久井 隆行) 食品の機能性やヒトの健康維持、疾病予防に関連した食品科学・分子栄養学・生化学の文献を精読し、関連分野の背景を理解すると共に課題を見出す。さらにディスカッションを通じて研究テーマを明確化し、設定する。</p>	
--------------	-----------------	--	--

<p>専門科目群</p>	<p>健康増進支援領域</p>	<p>健康増進支援特別演習 II</p> <p>(概要) 健康増進支援領域で設定した研究テーマに関連する最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な継続的文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して、課題解決と論文作成に求められる研究能力を培う。また、研究倫理、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。</p> <p>(2 千葉 仁志) 設定した研究テーマについて、分子・細胞・個人・社会のどのレベルで研究するかを文献情報・討議により決定し、さらに具体的な研究計画を研究計画書にまとめる。</p> <p>(3 針金 佳代子) 地域住民の主体性を尊重した家族・集団・地域がヘルスプロモーションを推進していく方法、多職種連携などの最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して研究能力を培い、研究倫理や適切な研究方法の選択を踏まえた研究計画を作成する。</p> <p>(4 山部 秀子) 健康増進支援特別演習 I で明確化した研究テーマに関連する最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して研究能力を培い、研究倫理や適切な研究方法の選択を踏まえた研究計画を作成する。</p> <p>(5 板垣 康治) 健康増進支援特別演習 I で設定した主に食物アレルギーに関連するテーマに基づき、解決すべき課題を明確化し、遂行するために必要な研究倫理、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。</p> <p>(10 近藤 明代) 地域の健康づくりに関する研究疑問をもとに、研究テーマを決定し、そのテーマに関する先行文献を選定・精読し、討議を行い、その研究の意義を確認する。次いで適切な研究方法の選択を行い、研究計画書を作成する。</p> <p>(11 百々瀬 いづみ) 研究テーマに関連する最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等を通して研究能力を培い、研究倫理や適切な研究方法の選択を踏まえた研究計画を作成する。</p> <p>(14 金高 有里) 研究テーマに関連する最新研究の動向を把握し、文献検索と精読、プレゼンテーション、討議展開、課題解決と論文作成に求められる研究倫理、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定する。</p> <p>(15 津久井 隆行) 課題解決に必要な実験や得られる結果等に係わる文献の精読、プレゼンテーション等を通して、研究計画を策定し、発表会の準備を行う。</p>	
--------------	-----------------	---	--

<p>専門科目群</p>	<p>健康増進支援領域</p>	<p>健康増進支援特別研究</p> <p>(概要)  地域に暮らす生活者を主な対象とし、健康増進支援領域における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。</p> <p>(2 千葉 仁志)  健康増進支援特別演習Ⅰ・Ⅱを通して決定した研究テーマ・研究計画について、学生は担当教員の指導・助言を受けながら研究（倫理審査を含む）を遂行し、学位論文にまとめる。</p> <p>(3 針金 佳代子)  健康増進支援特別演習Ⅰ・Ⅱを通して設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通じて、学位論文を作成の補助をする。</p> <p>(4 山部 秀子)  健康増進支援特別演習Ⅱで策定した研究計画に基づき、適切な対象を選定かつ適切な研究方法を用いて研究を遂行する。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通じて、学位論文にまとめる。</p> <p>(5 板垣 康治)  健康増進支援特別演習Ⅱで策定した研究計画に基づき、主に食物アレルギー関連研究を遂行するために必要な免疫・生化学に関連する基礎技術を身に付け、適切な研究方法を用いて研究を行う。得られたデータを整理し、考察を加えながら学位論文を作成する。</p> <p>(10 近藤 明代)  健康増進支援特別演習Ⅱで決定した研究テーマについて作成した研究計画書に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。</p> <p>(11 百々瀬 いづみ)  健康増進支援特別演習Ⅱの研究計画に基づき、地域に暮らす生活者を主な対象とした適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通じて、学位論文を作成する。</p> <p>(14 金高 有里)  健康増進支援領域における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づいて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。</p> <p>(15 津久井 隆行)  健康増進支援特別演習Ⅰにて設定したテーマについて、研究計画を策定し、適切な手法により研究を行う。背景の理解、実験、結果の解析、考察等、一連の研究過程を通して学位論文を作成する。</p>	
--------------	-----------------	---	--

専 門 科 目 群	健康再生支援領域	健康医療科学特論	保健医療分野における看護師、保健師、管理栄養士の専門職者に求められる対象者のライフステージや健康状態に対応する生理学・栄養代謝学的変化、経過について、細胞・分子レベル、系・疾患別、症状ごとの医科学的判断・評価の実際を、特に生活習慣病予防を視野に入れながら解説する。その学修を踏まえ、健康の決定因子の科学的理解に基づく保健医療専門職者としてヘルスプロモーションへの寄与のあり方を論じる。	
		健康再生支援学特論 I	<p>(概要) 超高齢社会となったわが国において高齢化に伴う心身機能の低下、認知症等を持つ高齢者の尊厳と自立した生活のための支援が急務となっている。本科目では、高齢者の健康問題と生活を再生するための支援の基盤となる高齢者の身体的・心理精神的・社会的変化、高齢者特有のアセスメント、栄養問題を含む健康生活への支援、さらに高齢者の栄養学的問題と専門的支援方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 服部 ユカリ／10回) 高齢者看護の諸理論を用いて障害や疾患をもつ高齢者のアセスメントと健康回復の問題と看護支援、さらに高齢者と家族・介護者の問題、社会生活を維持するための機能向上や再適応、健康生活の再生等の支援について教授する。また、在宅療養者のための制度や地域社会資源の活用、および地域包括ケアシステムと訪問看護ステーションの観点を含めて教授する。</p> <p>(7 川口 美喜子／4回) 高齢期の栄養問題の特徴について、高齢者の栄養・食生活の問題となる身体的要因・精神的要因・社会的要因と、管理栄養士による支援方法および地域包括ケアシステムと栄養ケア・ステーションの役割について教授する。</p> <p>(6 服部 ユカリ・7 川口 美喜子／1回) (共同) 高齢者の健康回復と生活の再生や自立を支援する看護職と管理栄養士の共通問題、地域包括ケアと支援や連携・協働のあり方・課題についてディスカッションし、検討する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		健康再生支援学特論 II	<p>(概要) 本科目では、主に慢性疾患をもつ有病者を対象として、健康回復と生活の再生に必要な支援について、栄養学的管理・指導と食生活支援に関わる専門的かつ総合的支援の方法、またNSTや病態栄養専門管理栄養士等による医療施設内での活動と多職種との連携のあり方、さらに地域で生活する有病者のための包括ケアや栄養ケア・ステーションの役割・機能と訪問看護ステーションとの連携を含め、医療における有病者への栄養管理・ケアと看護の役割について総合的に教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 川口 美喜子／10回) 有病者のうち、主としてがんや糖尿病等の生活習慣病や認知症、終末期にある人を中心に栄養・食生活上の問題と支援方法、NSTや病態栄養専門管理栄養士等と施設内での多職種連携のあり方、地域包括ケアシステムの資源の活用、栄養ケアステーションでの活動を総合的に教授する。</p> <p>(6 服部 ユカリ／4回) 有病者のうち、認知症の人の病態と生活活動の特徴、認知症の身体的制約条件と心理精神的・社会的特徴、生活への再適応支援、家族・介護者の特有の問題や社会資源の活用について教授する。</p> <p>(7 川口 美喜子・6 服部 ユカリ／1回) (共同) 地域医療における有病者の生活の再生を支援するために、さまざまな社会や地域の資源を考え、病院から地域への連携のあり方や課題についてディスカッションし、検討する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>専 門 科 目 群</p> <p>健 康 再 生 支 援 領 域</p>	<p>健康再生支援特別演習 I</p>	<p>(概要) 健康再生支援領域の専門科目の学修内容を深化させるとともに、健康回復や増悪防止を目的とする保健医療の視野から、健康障害をもつ人々の健康回復と生活の再生の支援および専門職教育に係る関心ある課題について、看護学あるいは栄養学に焦点を当て、保健医療系の文献の選定、精読、内容の検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定する。</p> <p>(1 大日向 輝美) 看護職・管理栄養士を取り巻く教育現象のなかから自己の興味・関心のある教育主体・対象(学生・教員・専門職・対象者等)、教育内容・方法等に関連した文献を検索・精読し、専門職教育の基盤となる諸理論と教育実践に対する理解を深めるとともに研究疑問を明確化する。</p> <p>(6 服部 ユカリ) 健康障害をもつ人々の健康回復と生活の再構築にかかわる関心のあるクリニカルクエストについて、看護学の視点から文献検索・内容検討を行い、課題について焦点を絞り、プレゼンテーション・討議、フィールドワーク等を通してリサーチクエストを設定し、研究テーマを決める。</p> <p>(7 川口 美喜子) 食事治療と栄養管理の視点から、生活習慣病の予防・回復、加齢に伴う栄養課題等に関わるクリニカルクエストに関する文献検索、精読を行い、課題の焦点を絞り、プレゼンテーション・討議、フィールドワーク等を通して研究テーマの明確化、設定を図る。</p> <p>(8 藤井 瑞恵) 主に生活習慣病の予防、増悪防止に関わるクリニカルクエストについて、看護学の視点から文献検索、精読を行い、課題の焦点を絞り、プレゼンテーション・討議、フィールドワーク等を通して研究テーマの明確化、設定を図る。</p> <p>(9 岡本 智子) 健康回復や増悪防止を目的とする保健医療および栄養学の視点から、人の行動、特に食行動に関わる文献の選定、精読、内容の検討、ディスカッションを通して研究テーマを明確化し設定する。</p> <p>(13 首藤 英里香) 看護技術に関する文献の講読により、看護実践における科学的根拠の意義と臨床への適用、実践上の課題に関する理解を深め、健康回復・生活再生の支援方法にかかわる研究疑問を明確化する。</p>	
	<p>健康再生支援特別演習 II</p>	<p>(概要) 健康再生支援領域で設定した研究テーマに関して、最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な継続的文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して、課題解決と論文作成に求められる研究能力を培う。また、倫理的配慮、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。</p> <p>(1 大日向 輝美) 看護職・管理栄養士を取り巻く教育現象に対する研究疑問をもとに研究課題を定め、文献検索により研究動向を概観する。テーマに関わる研究論文の精読、クリティークをとおして研究法や研究過程に関する理解を深め、研究目的・方法を明確化して研究計画を作成する。</p> <p>(6 服部 ユカリ) 健康再生支援特別演習 I で設定した研究テーマに関して、文献検討、プレゼンテーション・討議等を通して、研究方法を吟味し、倫理的配慮を含む適切な研究計画を策定する研究能力を培う。また、研究計画の精度を高めるための発表会の準備を行う。</p> <p>(7 川口 美喜子) 特別演習 I で設定した生活習慣病や加齢に伴う栄養課題を持つ高齢者・成人の栄養管理等の研究テーマに関連する文献の選定、精読、プレゼンテーション・討議等を通して、適切な研究法の選択、倫理的配慮を踏まえた研究計画を策定し、発表会の準備を行う。</p> <p>(8 藤井 瑞恵) 健康再生支援特別演習 I で設定した研究テーマに関連する文献の選定、精読、プレゼンテーション・討議等を通して、適切な研究法の選択、倫理的配慮を踏まえた研究計画を策定し、発表会の準備を行う。</p> <p>(9 岡本 智子) 健康再生支援特別演習 I で設定した研究テーマに関して、必要な継続的文献検索と精読、ディスカッションを通して課題解決と論文作成に求められる倫理的配慮、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表の準備を行う。</p> <p>(13 首藤 英里香) 健康回復・生活再生支援にかかわる文献・論文の系統的検索、クリティークを行うとともに、実証研究の方法論の理解を深める。これらを通して、研究課題、研究目的、仮説、方法を明確化し、研究計画を作成する。</p>	

<p>専門科目群</p>	<p>健康再生支援領域</p>	<p>健康再生支援特別研究</p> <p>(概要) 医療福祉施設や在宅において病気療養中の人々の健康状態の回復、健康生活の再生のための看護支援、栄養管理や食生活支援等における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。</p> <p>(1 大日向 輝美) 特別演習Ⅱで作成し倫理審査を通過した研究計画に基づき、研究協力の同意の得られた対象者からデータを収集・分析し、考察の過程を経て研究論文にまとめる。</p> <p>(6 服部 ユカリ) 健康再生支援特別演習Ⅰ・Ⅱを通して策定した健康再生と生活支援にかかわるテーマの研究計画について倫理審査を受けた後、計画に基づき研究フィールドの調整、対象の選定、調査の実施、データ整理、データ分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。</p> <p>(7 川口 美喜子) 特別演習Ⅰ・Ⅱを通して策定した健康状態の回復、健康生活の再生に寄与する栄養食事支援関わる研究テーマについて、研究計画に基づき、研究フィールドや対象の選定、調査の実施、データ収集と分析、考察等、一連の研究課程を通して学位論文を作成する。</p> <p>(8 藤井 瑞恵) 特別演習Ⅰ・Ⅱを通して策定した健康状態の回復、健康生活の再生の看護支援に関わる研究テーマについて、研究計画に基づき、研究フィールドや対象の選定、調査の実施、データ収集と分析、考察等、一連の研究過程を通して学位論文を作成する。</p> <p>(9 岡本 智子) 特別演習Ⅰ、Ⅱで明確化した研究テーマに沿い、適切な対象、研究方法等の選定に基づく研究計画を策定し、研究を遂行する。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察などの一連の研究過程を通して学位論文を作成する。</p> <p>(13 首藤 英里香) 特別演習Ⅱで作成した研究計画の倫理審査の受審、協力者要請・確保、データ収集・分析、考察等一連の研究過程に取り組み、修士論文を作成する。</p>	
--------------	-----------------	---	--